

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	明海大学		
② 大学等の設置者	学校法人明海大学	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	埼玉県坂戸市けやき台1-1		
⑤ 申請するプログラム名称	AI・データサイエンス教育プログラム		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	270	人
	(非常勤)	268	人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		12	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	1,150		人
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	4,776
	1年次	1,220	人
	2年次	1,331	人
	3年次	1,079	人
	4年次	900	人
	5年次	99	人
	6年次	147	人
⑫ プログラムの運営責任者	(責任者名)	安井 利一	(役職名)
			学長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	明海大学総合協議会		
	(責任者名)	安井 利一	(役職名)
			学長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	明海大学自己点検評価委員会		
	(責任者名)	安井 利一	(役職名)
			学長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	浦安キャンパス学務部学事課(教務担当)	担当者名	佐久間 健二
E-mail	data-science@meikai.ac.jp	電話番号	047-350-4993

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「学修の基礎III-b」(1、6回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの進化「学修の基礎III-b」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「学修の基礎III-b」(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「学修の基礎III-b」(1回) <p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「学修の基礎III-b」(5回) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「学修の基礎III-b」(6回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	<p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「学修の基礎III-b」(1回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「学修の基礎III-b」(6回) ・データのオープン化(オープンデータ)「学修の基礎III-b」(12回) <p>1-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「学修の基礎III-b」(1回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	<p>1-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見「学修の基礎III-b」(5回) ・データの可視化: 関係性の可視化「学修の基礎III-b」(5回) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「学修の基礎III-b」(6回) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「学修の基礎III-b」(6回) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「学修の基礎III-b」(6回) <p>1-5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「学修の基礎III-b」(6回) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「学修の基礎III-b」(6回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	<p>3-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「学修の基礎III-b」(4回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)「学修の基礎III-b」(4回) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「学修の基礎III-b」(4回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「学修の基礎III-b」(4回) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「学修の基礎III-b」(4回) <p>3-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「学修の基礎III-b」(4回) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取(学修の基礎III-b)(4回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「学修の基礎III-b」(4回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	<p>2-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「学修の基礎III-a」(14回)、「学修の基礎III-b」(11回) ・代表値の性質の違い「学修の基礎III-a」(14回) ・相関と因果(擬似相関、交絡)「学修の基礎III-b」(6回) ・クロス集計表「学修の基礎III-b」(12回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「学修の基礎III-b」(6回) <p>2-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「学修の基礎III-b」(12回) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「学修の基礎III-b」(12回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「学修の基礎III-b」(12回) <p>2-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)「学修の基礎III-b」(7回、11回) ・表形式のデータ(csv)「学修の基礎III-b」(12回)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

人文社会系・歯学が中心の大学の学生には、実社会で役立てるためのデータサイエンス・AIリテラシーを身につけることを学修成果と考えている。具体的には、単にデータ解析の専門家が提示した結果やアドバイスのみで物事を判断するのではなく、専門家とその結果について議論し、最終的な判断を人間が行うことの重要性を理解させることが学修成果と考える。また、全ての分野でこれらのスキルが共通していることを認識させることも重要な成果と考えている。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.meikai.ac.jp/department-graduateschool/urayasu/datascience.html>

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「医療情報処理学II」(1回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの進化「医療情報処理学II」(1回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「医療情報処理学II」(1回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「医療情報処理学II」(1回) <p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「医療情報処理学II」(1回) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「医療情報処理学II」(1回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	<p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「医療情報処理学II」(2回) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「医療情報処理学II」(2回) ・データのオープン化(オープンデータ)「医療情報処理学II」(2回) <p>1-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「医療情報処理学II」(2回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「医療情報処理学II」(2回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	<p>1-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの可視化:関係性の可視化「医療情報処理学IV」(3回) ・地図上の可視化「医療情報処理学II」(3回) <p>1-5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「医療情報処理学IV」(1回) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「医療情報処理学IV」(1回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	<p>3-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「医療情報処理学II」(7回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)「医療情報処理学II」(7回) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「医療情報処理学II」(7回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「医療情報処理学II」(7回) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「医療情報処理学II」(7回) <p>3-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「医療情報処理学II」(7回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	<p>2-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「医療情報処理学IV」(4回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「医療情報処理学II」(5回) ・相関と因果(擬似相関、交絡)「医療情報処理学IV」(4回) ・クロス集計表「医療情報処理学IV」(4回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「医療情報処理学IV」(4回) <p>2-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「医療情報処理学II」(5回) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「医療情報処理学IV」(4回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「医療情報処理学IV」(4回) <p>2-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの並び替え「医療情報処理学II」(5回) ・表形式のデータ(csv)「医療情報処理学IV」(4回)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

人文社会系・歯学が中心の大学の学生には、実社会で役立てるためのデータサイエンス・AIリテラシーを身につけることを学修成果と考えている。具体的には、単にデータ解析の専門家が提示した結果やアドバイスのみで物事を判断するのではなく、専門家とその結果について議論し、最終的な判断を人間が行うことの重要性を理解させることが学修成果と考える。また、全ての分野でこれらのスキルが共通していることを認識させることも重要な成果と考えている。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.meikai.ac.jp/department-graduateschool/urayasu/datascience.html>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
外国語学部	280	1,190	298	251										298	25%	
経済学部	300	1,200	335	263										335	28%	
不動産学部	180	720	190	134										190	26%	
ホスピタリティ・ツーリズム学部	200	800	115	93										115	14%	
歯学部	120	720	132	0										132	18%	
保健医療学部	70	280	71	68										71	25%	
合計	1,150	4,910	1,141	809	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,141	23%	

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

明海大学総合協議会規程

② 体制の目的

教学についての全学的な重要事項を審議するための組織として総合協議会を設置している。なお、各キャンパスにあつては、データを活用し、社会における様々な課題を発見・解決できる人材育成のため、坂戸キャンパス(歯学部)では歯学部数理・データサイエンス教育推進委員会、浦安キャンパス(外国語学部、経済学部、不動産学部、ホスピタリティ・ツーリズム学部及び保健医療学部)では総合教育センターがプログラムを運営し、総合協議会との連携を図っている。

③ 具体的な構成員

学長	安井 利一
副学長	高野 敬三
副学長・保健医療学部長	藤内 祝
副学長・歯学部長・歯学研究科長・病院長	申 基喆
外国語学部長・応用言語学研究科長	中川 仁
経済学部長・経済学研究科長	下田 直樹
不動産学部長・不動産学研究科長	中城 康彦
ホスピタリティ・ツーリズム学部長	内苑 孝美
浦安キャンパスメディアセンター長	小林 裕子
歯学部メディアセンター長	藤澤 政紀
浦安キャンパス教務部長	佐々木 文彦
歯学部教務部長	坂 英樹
浦安キャンパス学生部長	原 孝公
歯学部学生部長	日比野 靖
事務局長	中山 浩之

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	23%	令和4年度予定	45%	令和5年度予定	69%
令和6年度予定	93%	令和7年度予定	95%	収容定員(名)	4,910

具体的な計画

本教育プログラムは必修科目のみの構成であり、卒業要件として全員履修することを前提としているため、本項目に関する特段の取り組みは行われていない。なお、浦安キャンパスにあつては、学則上、外国人留学生及び社会人が他の科目の単位の修得をもって本教育プログラムである必修科目の単位の代えることができるとしているため、本教育プログラムの履修率が100%とならない場合がある。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムは必修科目のみから構成され、卒業要件として全員履修することが前提となっているため、本項目に関する特段の取り組みは行われていない。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムは必修科目のみから構成され、卒業要件として全員履修することが前提となっているため、本項目に関する特段の取り組みは行われていない。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムは必修科目のみから構成され、卒業要件として全員履修することが前提となっているため、本項目に関する特段の取り組みは行われていない。

修得率を向上させるためのサポート体制としては、LMSを利用して学生はいつでも担当教員に個別に質問や相談が可能であり、担当教員により迅速に対応が行われている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムに限らず、本学の授業はすべてLMSを活用することになっている。授業時間内に質問の時間を必ず確保していることに加え、学生は授業時間以外でも不明点等をLMSを利用して個別に担当教員に質問や相談が可能であり、担当教員はそれに対して直接LMSで回答、指導が行われている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本学坂戸キャンパスの歯学部数理・データサイエンス教育推進委員会、浦安キャンパスの総合教育センターにおいてLMSから得られる受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況から、学生たちのプログラム内容の履修・修得状況を把握・分析している。この分析結果は、全学の総合協議会及び自己点検評価委員会に報告され、全学で本プログラム全体の履修・修得状況を把握している。履修率をみると、浦安キャンパスが14～28%、坂戸キャンパスが18%と高いとは言えない値を示しているが、これは令和3年度に本プログラムがスタートしたためであり、卒業要件の必修科目であることから、年次進行により約95%の履修率を達成できるものと予想している。</p>
学修成果	<p>全学において実施している授業評価アンケート調査のうち、本プログラムに含まれる科目に関する履修者回答データを分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握している。分析結果は全学の自己点検評価委員会で報告され、各キャンパスの委員会又はセンターと連携し、本プログラムの評価・改善に活用している。本プログラムの修得は、全学部・学科の卒業要件と合致する。つまり、プログラム修得のために履修した授業単位は卒業単位として認められるため、卒業を目指した履修指導は、プログラム修得を目指した履修指導を兼ねるため、全学的な不断の改善等が実施される。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本教育プログラムを構成する授業科目で授業評価アンケートを実施しており、各キャンパスの委員会又はセンターが理解度を分析している。この分析結果は全学の総合協議会及び自己点検評価委員会に報告され、情報を共有している。授業評価アンケートでは、授業内容の理解度が想定より高いものになったが、分析結果を基に、さらに理解度が向上するよう授業内容の改善に取り組む。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケート結果はウェブページにおいて公開されており、後輩学生や他の学生はその評価結果を履修前に確認することができるようになっている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムを構成する科目は全学必修科目であり、卒業要件として全員このプログラムを修了することが前提となっているため、履修者数・履修率向上に向けての取り組みは行っていないが、学生が履修を完了できるように、LMSの個別連絡機能や提出された課題へのフィードバックによって、履修者の状況に応じて対応している。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	浦安キャンパスでは、毎年、キャリアサポートの行事の一環として「OB・OGから学ぶ業界・職種研究セミナー」を実施しており、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。本プログラム修了者は未卒業のため、2025年度から実施する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	浦安キャンパスでは、毎年実施しているPROGテストにおいて、1年次と3年次の各学科の学生のジェネリックスキルの分析を行っており、本教育プログラムの成果について産業界からの意見を求め、講評をいただいている。また、各種のスキルの推移を分析する中で、本教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の手法について意見を収集するとともに、総合協議会においてプログラムの改善に活用している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本学において数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」を理解するには、学生等が専攻したいと考えている外国語学、経済学、不動産学、ホスピタリティ・ツーリズム学、歯学、保健医療学の各分野での応用事例を示すことで実現できると考えている。また、日常生活と密接な関係にある検索エンジンでの検索キーワードランキング分析について演習を行うなど、工夫を施している。また、「学ぶことの意義」を理解させるには、就職活動や就職後に有用であることを示すことが重要であると考えている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	本プログラムでは、水準を維持しながら分かり易い授業を行うために、本学の学生の特性に合った授業コンテンツの作成に力を入れている。例えば、学生が身近に利用しているコンビニやスーパーのレジ、ECサイトでのレコメンド機能、ファストフード等、歯学部では歯科医療の現場での事例を提示しながら、これらの仕組みがわかるように授業を実施しており、興味を持ってもらうことで水準を維持しつつ分かり易い授業を展開できるよう努力している。また浦安キャンパスでは、「データサイエンス」が身近なものと感じられるよう、授業テーマに合った5分程度の動画を授業導入部で提示し、興味・関心が持てるようにしている。

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

https://www.meikai.ac.jp/department-graduateschool/upload_files/5bcc1e9ba33e85dbcbe7edf8d489ffac5051ee8.pdf

学修の基礎Ⅲ-a (データリテラシー 数理・推論)

開講学科等：日英中経不 HT 保 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：前/後

新井 啓(あらい けい)・沈 睿(しん えい)・関根 茂(せきね しげる)・中島 達洋(なかじま たつひろ)・萩尾 由貴子(はぎお ゆきこ)・深谷 慎介(ふかや しんすけ)・山本 樹(やまもと たつき)

■ 授業の概要

これからの時代は「AI・データサイエンス」が基盤教養です。この講義では、「数字データリテラシー」と「データに基づく推論力」といったデータサイエンスの基礎を身につけるため、以下の項目を学びます：

- ・「数字データ」の加工法、解釈法、使用法(元データ・割合・率・確率・平均値など)
- ・正しい推論に必要な考え方と基本ツール(マトリクス・ロジックツリー・演繹的推論・帰納的推論)

授業は対面で実施しますが、担当教員によって授業運営方法は若干異なります。遠隔授業の経験を生かして、manaba の利用や反転授業などが行われる可能性があります。各担当教員に従って学習を進めてください。

■ 到達目標

- 一般目標：・物事を数値化して捉える「数字データリテラシー」の基礎的素養を身につける。
・得たデータから、適切な結論を論理的に導出することを可能とする「推論力(ロジカル・シンキング)」の基礎的素養を身につける。
- 個別目標：1)日常生活や仕事で目にする様々な数値データの意味を正しく読み取り、説明できる。
2)与えられたデータから、必要かつ適切な数値を計算し、その思考過程を適切にアウトプットできる。
3)自分、あるいは他人(AI も含む)がデータから得た結論の妥当性を(簡単な場合には)判断できる。

■ 履修条件

必修科目につき特にありません。

■ 評価基準・方法

到達度確認テスト(2回)50%、授業時の課題(manaba のドリルなども含む)50%で評価します。

なお、全授業数の5分の4以上の出席、および第15回授業に実施する到達度確認テスト2(またはその追試)の受験を評価の前提条件とします。

■ 教科書

「数字データリテラシーのトレーニング」(学修の基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-a・Ⅲ-b のテキストは大学でセット販売されます。購入方法はオリエンテーション等で確認してください。)

■ 参考書

テキストの参考文献欄を参照してください。また、必要に応じて授業中に提示します。

■ 授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業内容：ガイダンス & プレイズメントテスト 事前学修 1.0hr：講義概要やテキストを読んで、授業内容のイメージを作っておく。 事後学修 3.0hr：プレイズメントテストの結果を見て「計算力」に問題があるときは、テキストの Lesson 0 を自習すること。
2 回	授業内容：データを取り扱うときに注意すること(数値の意味・誤差など)【テキスト Lesson 1】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読む。manaba 上に動画や教材がアップされているときは、教員の指示に従って取り組む。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
3 回	授業内容：データリテラシー(数値データの加工と解釈)① 1単位あたりの数値と“新しい量”の表現【テキスト Lesson 2】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
4 回	授業内容：データリテラシー(数値データの加工と解釈)② 割合計算の基本・割合が良いケース/実数が良いケース【テキスト Lesson 3】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
5 回	授業内容：データリテラシー(数値データの加工と解釈)③ 増加率と減少率【テキスト Lesson 4】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
6 回	授業内容：データリテラシー(数値データの加工と解釈)④ データの関係をモデル化する練習：方程式を作る【テキスト Lesson 5】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
7 回	授業内容：データに基づく推論と分析① 表を使ってデータを整理しよう【テキスト Lesson 6】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：これまでの授業でやり残した練習問題に取り組む。また、過去に間違えた問題に再チャレンジしてみる。
8 回	授業内容：データリテラシー(数値データの加工と解釈)のまとめ・到達度確認テスト1 事前学修 3.0hr：2回～7回で学んだ内容を復習しテストに備える。 事後学修 1.0hr：試験問題(特にできなかった問題)を解き直してみる。友人と教え合うのも良い。
9 回	授業内容：データに基づく推論と分析② 正しい場合分けをする方法(ロジックツリー)【テキスト Lesson 7】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
10 回	授業内容：データに基づく推論と分析③ 推論のトレーニング(演繹的推論)【テキスト Lesson 8】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
11 回	授業内容：データに基づく推論と分析④ 推論のトレーニング(帰納的推論・規則性の発見)【テキスト Lesson 8】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
12 回	授業内容：データサイエンスの基礎① 確率の計算【テキスト Lesson 9】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
13 回	授業内容：データサイエンスの基礎② 合理的な判断のための「期待値」【テキスト Lesson 9】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：テキストの練習問題を復習する。教員の指示があるときは、manaba のドリルや補助プリントの問題に取り組む。
14 回	授業内容：データサイエンスの基礎③ データの代表値(平均値・中央値・最頻値)/データを読むときの注意【テキスト Lesson 10】 事前学修 2.0hr：テキストの「解説」を読んでおく。 事後学修 2.0hr：これまでの授業でやり残した練習問題に取り組む。また、過去に間違えた問題に再チャレンジしてみる。
15 回	授業内容：到達度確認テスト2 事前学修 3.0hr：2回～14回で学んだ内容を復習しテストに備える。 事後学修 1.0hr：試験問題(特にできなかった問題)を解き直してみる。友人と教え合うのも良い。

学修の基礎Ⅲ-b (情報リテラシー)

開講学科等：日英中経不 HT 保 | 1 年次 | 2 単位 | 開講期：前/後

齋藤 千尋 (さいとう ちひろ)・沈 睿 (しん えい)・高橋 奈佳 (たかはし なか)・萩尾 由貴子 (はぎお ゆきこ)・深谷 慎介 (ふかや しんすけ)・山本 樹 (やまもと たつき)・渡部 綾子 (わたべ あやこ)

■ 授業の概要

データサイエンス・AI は、現在進行中の Society5.0 の社会の実現に向けて深く関与しており、今後は基盤教養ともなる。本科目では、データサイエンスの基礎として、

- ・データの利活用の現状と、生活、社会への影響を理解すること
- ・データの利活用に関わる安全対策、情報倫理について理解すること
- ・データの利活用のための分析スキルの基礎知識を習得すること
- ・データの利活用に不可欠な情報リテラシーを習得すること

を目指す。

■ 到達目標

一般目標：データサイエンス・AI に関する知識、情報倫理・セキュリティの知識、「データを読む、説明する、扱う」能力などを踏まえて情報の利活用ができるようになること。

- 個別目標：1. データの利活用、AI 利活用の役割と事例を具体的に説明することができる。
2. データ利活用の倫理、セキュリティについての的確に説明することができる。
3. 文字入力や、ファイル操作、ネットワーク利用などの基本操作ができる。
4. Excel によるデータ分析、Word や PowerPoint による文書やプレゼンテーション用資料の作成ができるようになる。

■ 履修条件

授業は毎回必ず出席して課題を提出し、事前事後学修もしっかり行うこと。

Microsoft の Word、Excel、PowerPoint を自習用に使えることが望ましい。

■ 評価基準・方法

課題(60%)、理解度チェック試験(10%)とタッチタイピング試験と基礎用語試験(20%+10%=30%)の合計点で評価する(評価基準は全クラス統一)。なお、5分の4以上の出席を評価の前提条件とする。

■ 教科書

『情報リテラシー Windows 10/Office 2019 対応』富士通エフ・オー・エム (FOM 出版)、2020 年

ISBN：978-4-86510-415-8

再履修者は、初回授業での指示にしたがうこと。

■ 参考書

参考となる図書やウェブページがある場合は別途指示する。

■ 授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業内容：ガイダンス：講義の概要と進め方、データサイエンスの役割 事前学修 1.0hr：講義概要を読んでおく。 事後学修 3.0hr：講義概要および担当教員の指示内容を確認しておく。
2 回	授業内容：Windows の基礎：Windows の概要とウィンドウやファイルなどの操作方法 事前学修 1.0hr：担当教員の指示に従って教科書を読んでおく。 事後学修 3.0hr：パーソナルコンピュータを使って授業内容を復習しておく(練習用ソフトの操作を含む)。
3 回	授業内容：インターネットの利活用 事前学修 1.0hr：担当教員の指示に従って教科書を読んでおく。 事後学修 3.0hr：授業内容を復習しておく。
4 回	授業内容：情報モラルと情報セキュリティ：データを扱う上での留意事項(理解度チェック試験) 事前学修 2.0hr：データの扱いについて調べておく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習しておく。
5 回	授業内容：ビッグデータと AI(1)：ビッグデータと AI の活用領域と利活用のための技術 事前学修 2.0hr：ビッグデータ・AI の活用事例を調べる 事後学修 2.0hr：授業内容を復習しておく。
6 回	授業内容：ビッグデータと AI(2)：ビッグデータと AI の課題解決への活用場面と最新動向 事前学修 2.0hr：ビッグデータ・AI の活用したビジネスモデルを調べる 事後学修 2.0hr：授業内容を復習しておく。
7 回	授業内容：日本語入力/タッチタイピング試験、基礎用語試験 事前学修 3.5hr：試験練習をしておく。 事後学修 0.5hr：試験内容を復習しておく。
8 回	授業内容：Excel (1)：データ入力、セル操作、ワークシート操作 事前学修 1.0hr：担当教員の指示に従って教科書を読んでおく。 事後学修 3.0hr：パーソナルコンピュータを使って授業内容を復習しておく。
9 回	授業内容：Excel (2)：関数 事前学修 1.0hr：担当教員の指示に従って教科書を読んでおく。 事後学修 3.0hr：パーソナルコンピュータを使って授業内容を復習しておく。
10 回	授業内容：Excel (3)：グラフ 事前学修 1.0hr：担当教員の指示に従って教科書を読んでおく。 事後学修 3.0hr：パーソナルコンピュータを使って授業内容を復習しておく。
11 回	授業内容：Excel (4)：「データを読む、説明する、扱う」方法 事前学修 1.0hr：データの種類について調べておく。 事後学修 3.0hr：パーソナルコンピュータを使って授業内容を復習しておく。
12 回	授業内容：Excel (5)：実データを用いたデータ分析と可視化 事前学修 1.0hr：データの集約(統計)と読み取りについて調べておく。 事後学修 3.0hr：パーソナルコンピュータを使って授業内容を復習しておく。
13 回	授業内容：PowerPoint (1)：プレゼンテーションの概要、スライド作成 事前学修 2.0hr：担当教員の指示に従って教科書を読んでおく。 事後学修 2.0hr：パーソナルコンピュータを使って授業内容を復習しておく。

14 回	授業内容：PowerPoint (2)：スライドの編集、スライドショーの実行 事前学修 2.0hr：担当教員の指示に従って教科書を読んでおく。 事後学修 2.0hr：パーソナルコンピュータを使って授業内容を復習しておく。
15 回	授業内容：まとめ：ルーブリックを用いた到達度の自己評価、資料作成課題 事前学修 0.5hr：本科目の到達・個別目標を再確認し、これまでの学修内容を復習しておく。 事後学修 3.5hr：学修内容を復習する。

医療情報処理学Ⅱ

第1学年

教育担当者	奥野 小百合 大谷 智三子
授業概要	日常生活や社会で起きている変化を知り、Society 5.0社会に必要なデータサイエンス・AIの利活用について基礎的な知識を習得する。データリテラシーのスキルを習得するとともに、情報化の現状と倫理について理解することを目指す。ワープロソフトを用いた医療に関する文書の作成、表計算ソフトで目的に応じたデータ加工・分析などを扱う。
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP3 チーム医療実践に必要な基本的知識とコミュニケーション能力を有していると判断できる。
授業形式	講義・実習
評価方法	1. 定期試験による評価 2. 課題による評価
教科書	補助プリント
参考書	Word&Excel 2016 (実教出版) Excel 2016 (実教出版) 情報ネットワーク論 (樹村房) 情報モラル&情報セキュリティ (FOM出版)
準備学習(予習・復習)	積極的かつ主体的な準備学習(予習・復習)が求められます。教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に各回、約1時間程度の準備学習(予習・復習)を行うこと。
学習目標(GIO)	1. 文書処理・表計算・インターネット閲覧など各種ソフトを目的に応じて操作出来るようにする。 2. 利用者マニュアル(操作プリント)を読み基本操作が出来るようにする。 3. スピードかつ正確に入力出来るようにする。 4. 情報リテラシーを身に付け、情報倫理を踏まえた情報活用ができるようになること。
到達目標(SBOs)	1. Excelのデータベース機能を使い、「患者さんデータベース」を作成することができる。 2. Excelによる「患者さんデータベース」から特定の条件に合った患者さんデータを抽出することができる。 3. Excelによる「患者さんデータベース」から特定の条件に合った患者さんデータを使い、Wordの「はがきと差し込み印刷」機能により郵便ラベルを作成することができる。 4. 利用者マニュアル(操作プリント)を読みExcelのデータベース操作ができる。 5. Wordの図形描画機能を使うことができる。 6. Wordにより目的に合わせて書式設定、編集ができる。 7. Wordでコピー・貼り付けの操作が出来、文章の効率的な入力、編集ができる。 8. Excelにより表を作成することができる。 9. データ・AIによって社会および日常生活が大きく変化していることを理解する。 10. データサイエンスが社会でどのように活用されているかを説明できる。 11. Excelを用いた統計処理や図表の作成などができる。 12. 統計の基本的内容、統計の正しい見方を説明することができる。 13. データ倫理や情報セキュリティなどの留意事項を理解した上で、データを扱うことができる。

回数	月	日	限	形式	担当	講義(実習)項目	SBOs No.	講義(実習)内容
1	9	21	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word 操作	5~7 9	社会で起きている変化 データ・A I 利活用の最新動向 臨床研修アンケート調査結果の作成
2	9	28	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Excel 操作	4, 8 10~11	社会で活用されているデータ データ・A I の活用領域 人口密度一覧表作成
3	10	5	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word 操作	5~7 12	医療統計 (1) データ・A I 利活用のための技術・現場
4	10	12	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word 操作・Excel 操作	4~8 11~12	速度入力 医療統計 (1) (2)
5	10	19	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Excel 操作	4, 8 11~12	速度入力 医療統計 (2) データを読む データを説明する データを扱う
6	10	26	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Excel 操作	1~2 4, 8	学習方法について 利用者マニュアル (操作プリント) について 「患者データベース」(1)
7	11	2	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Excel 操作	1~2 4, 13	「患者データベース」(1) データ・A I を扱う上での留意事項 データを守る上での留意事項
8	11	9	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Excel・Word 操作	2~4	速度入力 「患者データベース」(2) 定期健診案内文の作成
9	11	16	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Excel・Word 操作	2~7	「患者データベース」(3) 内覧会案内文 (袋とじ)・参加者名簿の作成
10	11	30	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word・Excel 操作	2~4 8	速度入力 定期健診案内文の作成 (はがき)
11	12	7	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word・Excel 操作	2, 4	講習会開催案内・講習会申込書の作成
12	12	14	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word	5~7	総合課題 (1)
13	1	11	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word 操作	5~7	速度入力 総合課題 (2)
14	1	18	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word 操作	5~7	総合課題 (3)
15	1	25	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word 操作	5~7	総合課題 (3)

医療情報処理学Ⅳ

第 2 学年

教育担当者	奥野 小百合 大谷 智三子
授業概要	社会状況の変化に対応できる情報通信技術（ICT）の基礎、情報リテラシーを習得する。歯科医学に即したテーマから自己の関心や意欲に従って自己学習し、医療に関する専門用語の特殊性を理解したうえでパソコンをツールとして利用し臨床において患者に理解できるように伝達する能力を習得する。 ワープロソフトを用いた医療に関する文書の作成、表計算ソフトで目的に応じたデータ加工・分析、プレゼンテーションソフトでの資料作成などを扱う。
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP3 チーム医療実践に必要な基本的知識とコミュニケーション能力を有していると判断できる。
授業形式	講義・実習・プレゼンテーション
評価方法	1. 課題による評価
教科書	補助プリント
参考書	プレゼンテーション技法+演習（実教出版） プレゼンテーション+PowerPoint2016（実教出版） 情報モラル&情報セキュリティ（FOM出版）
準備学習（予習・復習）	積極的かつ主体的な準備学習（予習・復習）が求められます。配布するプリントを参考に各回、約1 時間程度の準備学習（予習・復習）を行うこと。
学習目標（GIO）	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンを用いたプレゼンテーションの計画と資料作成をできるようにする。 2. インターネットを用いて必要とする情報収集をできるようにする。 3. プレゼンテーションソフト「PowerPoint」を操作できるようにする。 4. パソコンを利用し、情報を有機的に活用することをできるようにする。 5. パソコンを利用し、情報を相手にわかりやすく伝達することをできるようにする。 6. パソコンを目的にあわせ必要な複数の機能を総合的に選択・操作できるようにする。 7. スピードかつ正確に入力出来るようにする。 8. データ利活用のための簡単な前処理を実施できるようにする。 9. データを読み解き、適切な可視化手法を選択し、他者にデータを説明できるようにする。
到達目標（SBOs）	<ol style="list-style-type: none"> 1. PowerPoint によりスライドを作成し、画像情報、図形情報、文字情報を組み込むことができる。 2. スライド（PowerPoint）の背景色と文字色の変更が出来、視認性の高いスライドを作成できる。 3. PowerPoint を使ったプレゼンテーション（発表）の計画を作成できる。 4. PowerPoint により、効果的なプレゼンテーション（発表）をすることができる。 5. インターネットと書籍により目的にあった情報を収集することができる。 6. 指定されたテーマ（項目）に関し、情報を収集する最適な方法を選ぶことができる。 7. 指定されたテーマ（項目）に関し、効果的なスライド作成とプレゼンテーション（発表）の構成ができる。 8. PowerPoint の画面切り替え機能、アニメーション機能を使いスライドを作成することができる。 9. イメージスキャナにより書籍の画像をスライドに取り込むことができる。 10. Excelの関数式について目的に合わせて使用、説明ができる。 11. Excelで複雑な表の作成、表やグラフを発生させることができる。 12. Wordの図形描画、グラフ、Smartart、ワードアート、画像の挿入、各機能を活用し、効率良く作成することができる。 13. データを必要に応じて取得・加工・分析し、適切な可視化手法を選択し、他者にデータを説明できる。

回数	月	日	限	形式	担当	講義(実習)項目	SB0s No.	講義(実習)内容
1	9	17	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Excel操作	10~11 13	Excel 課題(2) データ・AI利活用のための技術・現場 データリテラシー
2	9	24	1-4	講義 実習	奥野 大谷	PowerPoint 操作	1~9 11, 13	PowerPoint 操作 PowerPoint(1) 課題「歯科」スライド・ノート完成
3	10	1	1-4	講義 実習	奥野 大谷	PowerPoint 操作	1~9 11, 13	速度入力 PowerPoint 操作 PowerPoint(2) 課題「歯科」スライド・ノート完成
4	10	15	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Informed Consent	1~9 11~13	速度入力 IC とは? IC が求められる理由 歯科医療のIC 医療情報の収集、テーマの提示検討選択 IC 課題 調査 IC 課題(1) 計画書作成
5	10	22	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Informed Consent	1~9 11~13	IC とは? IC が求められる理由 歯科医療のIC 医療情報の収集 IC 課題 調査 IC 課題(1) 計画書完成
6	10	29	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Informed Consent	1~9 11, 13	速度入力 IC 課題(1) スライド作成①
7	11	5	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Informed Consent	1~9 11, 13	IC 課題(1) スライド作成②
8	11	12	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Informed Consent	1~9	速度入力 IC 課題(1) スライド完成 リハーサル
9	11	19	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word操作	12	リーフレット作成①
10	11	26	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word操作	12	速度入力 リーフレット作成②
11	12	3	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word操作	12	リーフレット完成
12	12	10	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Excel操作	8~11 13	速度入力 Excel 課題(3) データ・AI利活用のための技術・現場 データリテラシー
13	12	17	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word操作	12	パンフレット作成①
14	1	14	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word操作	12	速度入力 パンフレット作成②
15	1	21	1-4	講義 実習	奥野 大谷	Word操作	12	パンフレット完成

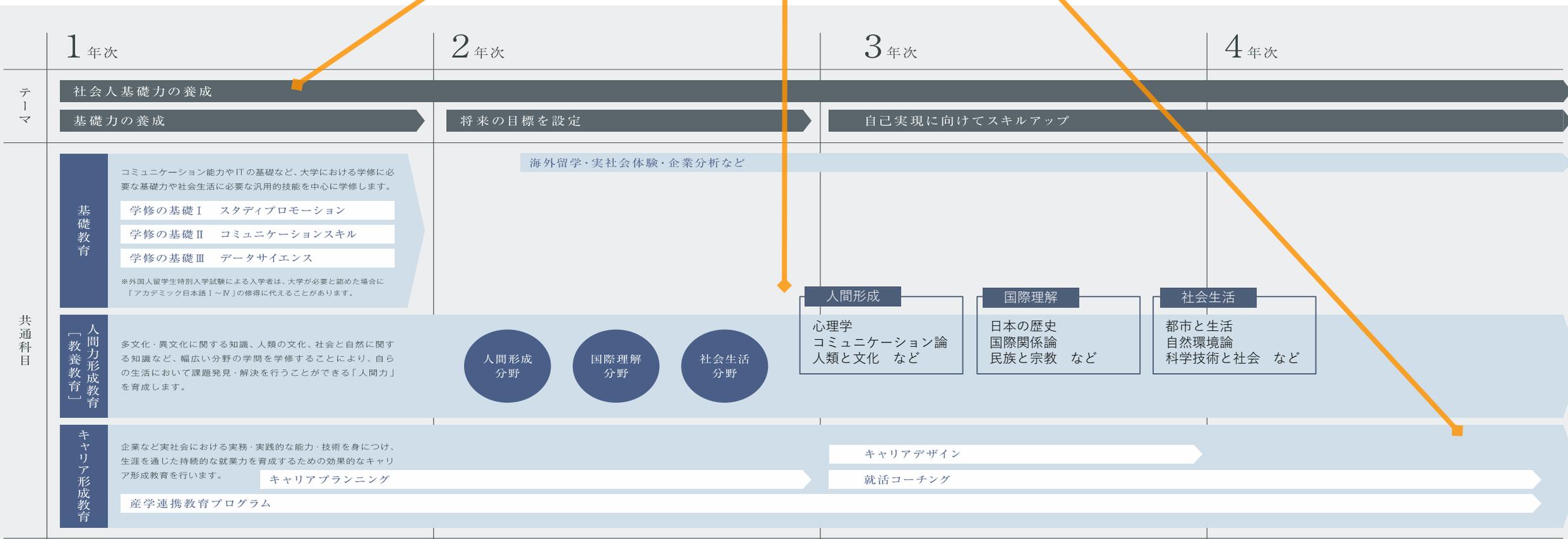
※10/8（金）けやき祭準備のため休講

明海大学 建学の精神

社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成をめざす

明海大学 ディプロマ・ポリシー

厳格な成績評価の下、建学の精神としての社会性（変わりゆく社会の中でも課題を発見し、主体的に解決する、思考力や判断力）の資質、創造性（自らの求めゆく理想に到達するための思考過程や技術の創造と表現力）の資質、そして合理性（主体的に行動する自律性・自立性と自己の確立）の資質が認められる人材を学位授与の基礎とし、各学部学科および研究科にて基準を定めている。



歯学部 履修系統図

スコープ：学修経験の範囲と水平的統合

シークェンス…学修経験の順次性と垂直的統合

DP 学位 授与方針	生命の尊厳を大切にする医の心と高い社会的倫理観を備えている。	歯科医師として必要な基礎的・専門的知識並びに臨床的技能を有する。	協調性と豊かな感性に基づく高いコミュニケーション能力を有する。	知的探究心と豊かな感性に基づく科学的思考ができる。	生涯にわたる自律的学修能力がある。	
六年次履修		総合歯科医学 総合演習		総合歯科医学 総合演習	総合歯科医学 総合演習	
五年次履修	医療倫理 臨床実習 チーム医療論	歯科法医学 歯科医療管理学 チーム医療論 医療倫理	皮膚科学 耳鼻咽喉科学 眼科学 臨床実習	臨床実習 チーム医療論		
四年次履修	歯科行動科学	歯科矯正学 小児歯科学 全部床義歯学 部分床義歯学 クラウン・ブリッジ補綴学 顎顔面リハビリテーション学 歯科薬理学 放射線学Ⅱ 口腔外科学Ⅱ 口腔インプラント治療学 口腔診断学	歯科麻酔学 高齢者歯科学 口腔衛生学 スポーツ歯学 障がい者歯科学 歯学英语Ⅱ 歯科行動科学 内科学 外科学 小児科学 総合講義(4年)	歯科行動科学	総合講義(4年)	
三年次履修	臨床実習体験Ⅱ	感染免疫制御学 歯周病学 歯科材料学 歯科器械学 保存修復学 歯内療法学 病理学	薬理学 口腔外科学Ⅰ 放射線学Ⅰ 公衆衛生学(衛生学含む) 歯学英语Ⅰ 総合講義(3年) 臨床実習体験Ⅱ	臨床実習体験Ⅱ	総合講義(3年)	
二年次履修		組織学 解剖学 口腔解剖学 生理学	生化学 福祉と介護(体験実習含む) 総合講義(2年)	◆英会話Ⅲ・Ⅳ ◆英文講読Ⅲ・Ⅳ ◆英作文Ⅲ・Ⅳ ◆医療情報処理学Ⅲ・Ⅳ	◆医用工学 ◆人体発生遺伝学 ◆生体高分子化学 ◆医療統計学 歯学基礎科学	
初年次履修	歯科医学概論 臨床実習体験Ⅰ ◆生命哲学 ◆心理学 ◆健康増進論	◆経済学 ◆運動生理学Ⅰ・Ⅱ ◆人間関係論 ◆医療行動科学Ⅰ・Ⅱ	歯科医学概論 臨床実習体験Ⅰ	臨床実習体験Ⅰ ◆英会話Ⅰ・Ⅱ ◆英文講読Ⅰ・Ⅱ ◆英作文Ⅰ・Ⅱ ◆医療情報処理学Ⅰ・Ⅱ	◆コミュニケーション論 ◆海外研修講義 ◆*中国語Ⅰ・Ⅱ ◆*スペイン語Ⅰ・Ⅱ ◆*イタリア語Ⅰ・Ⅱ	◆物理学Ⅰ・Ⅱ ◆生物学Ⅰ・Ⅱ ◆化学Ⅰ・Ⅱ ◆数学Ⅰ・Ⅱ ◆分子生物学 ◆科学実験演習

DP: Diploma Policy ※: 選択必修科目、他は全て必修科目 ◆: 人間力形成科目、無印: 専門科目

明海大学総合協議会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、明海大学(以下「本大学」という。)学則第12条第2項の規定に基づき、明海大学総合協議会(以下「総合協議会」という。)に関し必要事項を定める。

(組織)

第2条 総合協議会は、次の各号に掲げる総合協議会委員(以下「委員」という。)をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 大学院研究科長
- (4) 学部長
- (5) メディアセンター長
- (6) 病院長
- (7) 教務部長
- (8) 学生部長
- (9) 事務局長
- (10) その他学長が指名した者

2 総合協議会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(任期)

第3条 前条第1項第11号に掲げる委員の任期は、学長がその都度定める。

(任命)

第4条 委員は、理事会の議を経て理事長が任命する。

(審議事項)

第5条 総合協議会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり、当該事項を審議し意見を述べるものとする。

- (1) 全学的な教育研究に関する重要事項で、学長が意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- (2) 各学部、大学院及びその他の機関において、相互の調整を必要とする事項
- (3) 国際交流に関する事項
- (4) インスティテューショナル・リサーチ(IR)に関する事項

(会議)

第6条 学長は、総合協議会を招集し、その議長となる。ただし、学長に事故あるときは、副学長がその職務を代行する。

2 総合協議会は、月1回開催する。ただし、必要ある場合は、臨時に開催することができる。

3 総合協議会の招集は、開催日の5日前までに会議の目的とする事項を示して各委員に通知しなければならない。ただし、緊急の場合はこの限りでない。

(議事の成立)

第7条 総合協議会は、委員総数の2分の1以上の出席をもって成立する。

2 議事は、出席者の過半数をもって決め、可否同数の場合は議長がこれを決める。

3 前項前段の議決には、議長は加わることができない。

4 総合協議会の議事について、特別の利害関係にある者は議決に加わることはできない。

(理事長および常務理事の出席)

第8条 理事長および常務理事は、総合協議会に出席して意見を述べることができる。

(議事録)

第9条 議長は、総合協議会の議決事項およびその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、議長および出席委員のうちから互選された委員2名が署名押印しなければならない。

(庶務)

第10条 総合協議会の事務は、総務部歯学部庶務課において処理する。

(規程の改正)

第11条 この規程の改正は、理事会が学長の意見を聴き決定する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成10年4月1日から施行する。

2 明海大学総合運営会議規程（昭和63年3月7日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2014年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2014年8月4日から施行する。

附 則

1 この規程は、2015年4月1日から施行する。

2 明海大学総合協議会規程細則（平成10年4月1日施行）は廃止する。

附 則（2020年3月17日一部改正）

この規程は、2020年4月1日から施行する。

明海大学自己点検・評価規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人明海大学管理運営基本規則第3条第2項の規定に基づき、明海大学（以下「本学」という。）の建学の精神を具現化し、教育研究水準の活性化とその質的向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価に関し、必要な事項を定める。

(全学委員会)

第2条 次の各号に掲げる事項を行うため、学長のもとに明海大学自己点検評価委員会（以下「全学委員会」という。）を置き、委員会は学長の命によりその処理等を行う。

- (1) 本学における自己点検・評価の実施計画を作成すること。
- (2) 全学の自己点検・評価を実施し、理事会へ報告すること。
- (3) 本学の自己点検・評価に関する年次報告書の作成及び公表に関すること。

(組織)

第3条 全学委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 大学院研究科長
- (5) メディアセンター長
- (6) 付属病院長
- (7) 教務部長
- (8) 学生部長
- (9) 事務局長
- (10) その他学長が必要と認めた者

(委員の任期)

第4条 前条第1項第11号の委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

(委員長)

第5条 全学委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員長は、全学委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 全学委員会は、委員の過半数の出席によって成立し、その議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(キャンパス委員会)

第7条 本学の浦安キャンパス及び坂戸キャンパスに、それぞれのキャンパスの各部局の自己点検・評価を行うため、学長のもとにキャンパス自己点検評価委員会（以下「キャンパス委員会」という。）を置く。

- 2 キャンパス委員会は、全学委員会の依頼により、自己点検・評価を実施し、その結果を全学委員会へ報告する。

(浦安キャンパス委員会の組織)

第8条 浦安キャンパス自己点検評価委員会（以下「浦安キャンパス委員会」という。）は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 外国語学部長、経済学部長、不動産学部長、ホスピタリティ・ツーリズム学部長及び保健医療学部長
- (2) 大学院応用言語学研究科長、経済学研究科長及び不動産学研究科長
- (3) メディアセンター長
- (4) 教務部長
- (5) 学生部長

- (6) 学科主任及び別科長
- (7) 保健管理センター所長
- (8) 総務部長
- (9) 浦安キャンパス学務部長
- (10) その他学長が必要と認めた者

2 前項第9号の委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

3 浦安キャンパス委員会に委員長を置き、第1項第1号の委員の中から学長が指名する。

4 委員長は、浦安キャンパス委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(歯学部委員会の組織)

第9条 歯学部自己点検評価委員会（以下「坂戸キャンパス委員会」という。）は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 歯学部長
- (2) 大学院歯学研究科長
- (3) メディアセンター長
- (4) 付属病院長
- (5) 教務部長
- (6) 学生部長
- (7) 中央研究部長
- (8) 保健管理センター所長
- (9) 歯学部事務部長
- (10) その他学長が必要と認めた者

2 前項第11号の委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

3 坂戸キャンパス委員会に委員長を置き、第1項第1号の委員をもって充てる。

4 委員長は、坂戸キャンパス委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(点検評価事項等)

第10条 全学委員会及びキャンパス委員会は、次の各号に掲げる事項について点検及び評価を行う。

- (1) 教育理念・目標等
- (2) 学生の受入れ
- (3) 学生生活への配慮
- (4) カリキュラム、授業時間割等の編成
- (5) 教育指導のあり方
- (6) 試験、成績評価、単位認定
- (7) 教育方法の工夫、改善
- (8) 卒業生の進路状況
- (9) 研究活動
- (10) 教員組織
- (11) 施設設備・環境
- (12) 国際交流
- (13) 社会との連携
- (14) 管理運営、財務
- (15) 大学院の教育・研究活動
- (16) 付属病院及びP D I 歯科診療所の活動
- (17) 付属研究所・センター等の活動
- (18) 自己点検・評価体制
- (19) その他学長が全学委員会及びキャンパス委員会の意見を聴き必要と認める事項

2 前項各号に掲げる事項に係る具体的な点検項目（以下「全学点検項目」という。）は、全学委員会が別に定める。

(実施部会等の設置)

第11条 キャンパス委員会は委員会所掌事項について、点検評価事項の実態調査・検討等を行うため実施部会(小委員会等)を置くことができる。

(点検評価の実施)

第12条 全学委員会及びキャンパス委員会は、全学委員会の定めるところにより定期的に点検及び評価を行う。

2 全学委員会は、全学点検項目のうちから、当該年度に行う点検項目を定める。

(年次報告書)

第13条 全学委員会は、全学委員会及びキャンパス委員会が行った点検及び評価を取りまとめ、理事会へ報告のうえ、年次報告書として公表する。(点検評価結果の対応)

(点検評価結果の対応)

第14条 学長、副学長、学部長、大学院研究科長、メディアセンター長、付属病院長、教務部長、学生部長、中央研究部長及び事務局長は、全学委員会及びキャンパス委員会が行った点検及び評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについて、その改善に努めるものとする。

(事務)

第15条 全学委員会の事務は総務部歯学部庶務課、キャンパス委員会の事務は総務部浦安キャンパス庶務課又は歯学部庶務課において処理する。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な事項は、全学委員会が別に定める。

(改正)

第17条 この規程の改正は、理事会が学長の意見を聴き決定する。

附 則

1 この規程は、平成5年11月16日から施行する。

2 この規程制定後、はじめて第3条第1項第9号、第8条第1項第7号及び第9条第1項第11号に規定する委員となった者の任期は、第4条、第8条第2項及び第9条第2項の規定にかかわらず平成6年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月21日から施行し、平成10年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年11月15日から施行する。

附 則

この規程は、2014年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は2015年4月1日から施行する。

2 改正前に選出されている委員については、改正後の第3条、第8条及び第9条の規定により指名されたものとみなし、任期は残任期間とする。

附 則

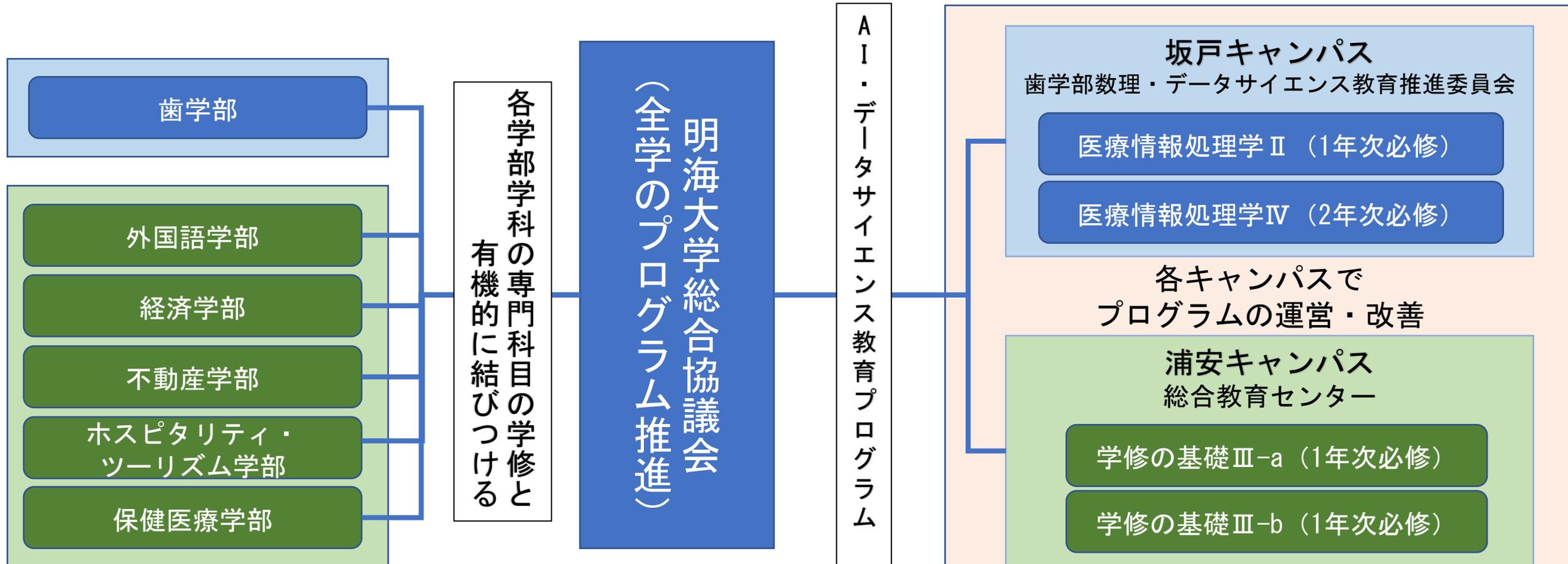
この規程は、2019年4月1日から施行する。

附 則（２０２０年３月１７日一部改正）
この規程は、２０２０年４月１日から施行する。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル) 取組概要

<目的>

Society5.0の時代を迎え、本学が建学の精神において標榜する「社会性」「創造性」「合理性」は、AI・データサイエンスの裏付けがあってこそ力を発揮するものと考えられる。本学で学び、国際未来社会で活躍する卒業生が、さまざまな企業や歯科医療現場において、情報分析を元にした的確な判断を下し、社会をリードする人材として活躍するために、リテラシーレベルとしてデータサイエンスの基礎力を固めることを目的とする。



学内体制の強化計画

実施計画推進のための組織 全学の教育指針の提示

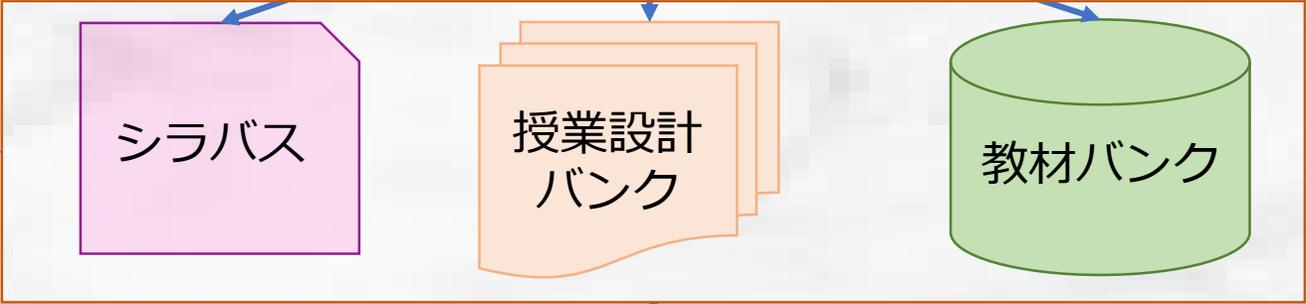
明海大学
総合協議会

歯学部
数理・データサイエンス
教育推進委員会
授業担当者

両キャンパス授業責任者の連絡協議会

- 教育内容の立案, 実現
 - カリキュラム, シラバス, 授業設計
- 共通で利用する教材バンクの設置
- 関連授業の評価・分析・改善

浦安キャンパス
総合教育センター
基礎教育部門



授業担当者

フィードバック

明海大学浦安キャンパスにおける AI・データサイエンス教育 促進計画

- 意識改革
「やらなければならないこと」から「やっておこう」

リテラシー
教育プログラム

基礎教育科目（必修）

- Society5.0社会への
認識強化
「自分が携わる」と
いう認識

応用基礎I
教育プログラム

- ロボットを使ってのアルゴリズム理解
- テキストマイニング分析
- AWSを利用したでの分析など

教養系選択科目

- 経験を積む
「実社会に役立つ」の
体験

応用基礎II
教育プログラム

実課題の解決

- 課題解決のための計画策定
- 分析
- 分析結果の解釈
- 解釈からの解決方法の考案

リテラシーレベル

応用基礎レベル